

お弁当といえば、必ずと言っていいほどミニトマトが入っていました。母に確認したところ、ミニトマトは彩りと、栄養と、隙間を埋めるために冷凍食品とともに大活躍していたとのこと。

私が大人になってから知ったのですが、実は母はご飯のメニューを考えるのがとにかく苦手なのです。作ることは苦ではないようですが、メニューはなかなか思いつかないそうです。クックパッドもない当時、仕事をしながら、毎日苦手なお弁当メニューを考えて作ってくれていたことに今でも感謝しています。（平成10年卒 常盤 真由美）

平成9年頃



平成12年頃

高校時代は3年間ずっと母親がお弁当を作ってくれていました。調理実習で食事がある時以外は必ずお弁当でした。写真が高校生活初期のお弁当のイメージです。最初はこういう一体型の普通のお弁当箱でした。中身は成長期の男子らしく肉々しいお弁当でした（笑）。

高校生活中期からはお弁当箱は「複数の容器の入った保温機能付きお弁当箱」へとグレードアップしました。中身は相変わらず肉々しいお弁当でしたが、スープ等汁物の携帯も可能になりました。吊るし紐付きの立派なお弁当箱でしたが、今はどこにあるのやら。

現在、仕事にはお弁当持参率が高いですが、当時のあのハイグレードのお弁当箱が恋しいです。（平成14年卒 中塚 啓太郎）

### 令和2年 現役生のお弁当



昔に比べて、おかずのバラエティーが豊富になった一方で、白ご飯の量は少なくなっているようです。見た目もカラフルで、栄養バランスもとてもよさそうです。



### ～Column vol.2～

#### ランチジャー今昔



左図は昭和にはやったランチジャー。弁当箱全体が魔法瓶になっており、6時間60℃の状態を保てるものの、15×15×27cmという巨大サイズで、発売当初はガラス製だったようです。

右図は現役生のランチジャーですが、材質はステンレス製で、小型・堅牢化されています。

